

めでいかすどる  
Médicastre



「 神 輿 」

鶴岡地区医師会

20年 5月号

## 第 87 回 定時総会議事録

日時：平成 20 年 3 月 19 日(水) 18:30～

会場：医師会 3 階講堂

**黒羽根議長**：定刻となりましたので、鶴岡地区医師会第 87 回定時総会を開会致します。最初に事務局長より資格確認をお願いします。

**佐藤事務局長**：資格確認についてご報告致します。会員総数 184 名、18 時 30 分現在の出席者数 28 名、委任状の提出者 116 名、計 144 名となり総会の成立に必要な過半数を満たしておりますので、本総会は成立致します。

**黒羽根議長**：ありがとうございます。続きまして議事録署名人の選出に入りますが、どなたか立候補される方いらっしゃいますでしょうか。どなたもいらっしゃらないようですので、こちらから指名させていただきます。中村純先生、滝沢元先生の両先生にお願いしたいと思います。

それでは会長挨拶に移りたいと思います。中目会長、宜しくお願ひ致します。

**中目会長**：皆さんこんばんは。お忙しいところご出席いただき有難うございます。今日は第 87 回定時総会ということで、現執行部の任期が満了する時期にもあたり 18 年度、19 年度に亘り我々が行ないました活動方針と残された課題をお話しすることで、会長挨拶に代えさせていただきますと思います。

最初に 18 年度ですが、1.については 17 年 12 月に発生したいなほ脱線事故を受け、緊急災害部を新設しました。3.については 5 月に実施する監事慰労会を、あつみ温泉に足を移して開催しました。その際に温海地区で開業されている先生方をお招きし、意見交換を行ないました。5.については、新公益法人会計の導入により本日の資料も全てキャッシュフロー形式となっております。6.については 18 年 12 月に外部評価委員会を開催しましたが、現在のままで推移していくと人件費倒れとなってしまうので、早急に対策を練るようという非常に厳しい指摘がありました。7.

については以前もお話しましたが、休日夜間診療所が総合保健福祉センターへ移転することが決定となりました。

次に 19 年度については、1.の庄内プロジェクトとして鶴岡市が認定されました。19 年度は介入前の調査となり、20 年度から本格的に実施されます。2.については健診検査新システム導入ということで取組み、20 年 4 月から移行となります。3.については臨床検査課による FMS 導入があり、コスト削減に努めました。4.については前年度と同様に湯野浜で監事慰労会を開催し、湯野浜や大山、京田地区で開業されている先生方を中心にお集まりいただき懇親会を行ないました。5.について、湯田川温泉リハビリテーション病院は介護療養病床を回復期リハ病床へ転換しました。6.については本日の議題となり、ようやくここまで話が進んだということになります。7.については、職員の寒冷地手当を 21 年度までの 3 年間で廃止することを決定しました。8.の期末手当の見直しについても、今年度は支給しないことに致しました。9.については、管理会計が 19 年度いっぱい按分され、会計上は無くなるということですので。

今後の課題として本日の役員改選により、新しい体制で取り組んでいく項目としては 1.新健診センターの設立、2.組織の改変、3.については新しい給与体系を構築していくということ。4.は職員に目標管理制度を定着させ評価と連動させていくということや、5.の教育制度を本格的に行なっていくことが挙げられます。6.については現在、ふきのとうで在宅介護支援センターとケアプランセンターを運営していますが、市より 21 年度から地域包括支援センターの委託依頼を受け、受託する方向で検討及び準備を進めており

ます。7.については、当医師会が公益法人として相応しいのかという認定が2012年度までに行なわれます。我々としましては現在の形が最良であると考えられますので、認可を受けるべく検討を進めていきたいと思っております。

以上、少し駆け足になりましたが挨拶とさせていただきます。

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。それでは議事に移り役員改選の件についてですが、会長候補者1名、副会長候補者2名、理事候補者12名、監事候補者3名、議長候補者1名、副議長候補者1名、裁定委員候補者11名となります。公募者の定数と立候補者数が同数のため投票せず全員を当選としたいと思いますがいかがでしょうか。賛成の声が多いと認めますので、新体制が承認されました。

次に県医師会における代議員及び予備代議員、国保組合議員、国保組合共済会総代、信用組合総代、協同組合総代の任期満了に伴う再選については、これまでの慣例通り当会会長の推薦による一任ということで宜しいでしょうか。異議なしと認め、この件に関しても承認されました。

続きまして平成19年度補正予算案承認の件についてお願い致します。

**中里理事、横山理事、鈴木理事、土田副会長、竹田理事、岡田理事**から原案により説明（略）

**中里理事**：なお、管理会計が今年度をもって廃止となります。今後は、各会計が医師会館を占有している面積等で按分及び分散されますので、何卒ご了承下さいませよう宜しくお願い致します。

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。何か質問等ございませんでしょうか。

**齋藤壽一先生**：新公益法人会計について、よく知らないのので教えていただきたいです。湯田川温泉リハビリテーション病院の未収金について、今年度分は決算に入るものと思えます

が、過年度の未収金については予算書のどの部分に入るのでしょうか。

**今野事務部長**：この予算書の中には記入されておりません。

**齋藤壽一先生**：過年度の未収金については決算で出てくるのですか。本来、収入となるべき未収金があるわけですから、その処理をどうなされているのか教えていただきたい。予算に入れずに決算に入るというのでは、バランスが取れないのではないかと思います。

**今野事務部長**：平成13年度から18年度までは531万9千円の未収金があります。これにつきましては、前期繰越収支差額の補正後予算額2億316万円に含まれています。

**齋藤壽一先生**：病院の経営にとって一番大事なことです。そこに含まれるということを中心に申し、会員にわかりやすいような会計書を作っていただきたいと思えます。

**今野事務部長**：内訳を決算の際に作成するように致します。

**齋藤壽一先生**：執行部にお聞きしたいのですが、この問題は私の時から継続しているわけですね。鶴岡市との間で、確定した未収金に関しては半々で負担しておくという覚書があるはずですが、6年ほど経過していますが、どういう状況になっていますか。

**今野事務部長**：19年5月の病院経営委員会で鶴岡市と協議しています。それ以前にも荘内病院へ督促等を行なっています。平成13年度、14年度の半額については確定し、19年度に予算化しています。欠損金については全国的に問題になっており、県に対して県内では統一した対応をしたいと依頼しましたが、見解が出ていないとのことでした。なお、荘内病院分と同様に処理しなければならないため支払月については明言できないとの返答がありました。理由としては保育料等との兼ね合いがあり全体を統一した見解で進めなければならないとのことでした。当局からは、19年度の決算時期までには処理方針を明確

にしていきたいと思っている、との説明がありました。

その後 10 月後半に入り再度協議したところ、米沢市立病院が公益医業法の全適用となったとのことで、未収金処理についても条例化を図ったとの情報を得ていたため、条例化に向けて検討を進めていきたいとの返答をいただいております。

**齋藤壽一先生：** 以前の話ですと 19 年度中に決着がつくということでしたが、20 年度に繰り越すということになったわけですね。しかし、覚書があり取り決めがあるわけですから、5 月の決算総会までにきちんとした方向性を出していただきますよう、宜しくお願いします。

**竹田理事：** 以前から齋藤前会長には大変心配していただいていることで、市の最終的な話が中々固まらないということがありますが、毎月のように議題に挙げ検討しておりますので、5 月には明らかな数字を出したいと思えます。

**黒羽根議長：** それでは平成 19 年度補正予算案承認の件についてお諮りします。賛成の方は挙手をお願い致します。

#### － 挙手多数－

平成 19 年度補正予算案は承認されました。

続きまして平成 20 年度鶴岡地区医師会事業計画案承認の件についてお願い致します。

**中目会長：** 原案により説明（略）

**黒羽根議長：** どうもありがとうございます。何か質問等ございませんでしょうか。

**齋藤壽一先生：** 色々と新規項目があり大変良いと思いますが、最近の状況を考えると地球温暖化対策ということ、今後の人口減少を見込んだ非正規職員に対してどうお考えか、どう具体化していくのか教えていただきたいのですが。

**中目会長：** 温暖化の問題につきましては、みずばしょうである程度を実証していますので新センターを設立する際に取り入れていくと

いう形です。現センターへということは経費的に厳しいと思われれます。

また、全体の人口は減るが高齢者は増えていくということなので、湯田川・みずばしょうを機能的に特化させ連携していこうと思っています。職員の採用に関しては、基本的には看護師や理学療法士などの専門職は今後も採用し、一般職については現状の職員で持ちまわりという対応にします。今はパートタイム労働者を正職員にこなさいという指導があり、パートを多く抱えていることは良くないとされています。そこを踏まえて今後工面していきたいと思えます。

**齋藤壽一先生：** 温暖化に対しては、大きなものに関しては新センターでなければできないと思えますが、社用車や冷暖房機器を省エネ機器へ更新するというので、今できることを実施するというスタンスが求められていると思えますので、是非ご考慮いただきたいと思えます。

もう一点、医師会全体では非正職員はどれくらいいるのでしょうか。

**佐藤人事経理課長：** 臨時、パート含め 32 名ほど居ります。

**齋藤壽一先生：** 延べでは何%ぐらいでしょうか。

**佐藤人事経理課長：** 8.6%です。

**齋藤壽一先生：** 湯田川はどうでしょうか。

**今野事務部長：** 3 月 1 日現在で 154 名に対し 15 名、約 10%です。

**齋藤壽一先生：** 以前より減っていますか。

**今野事務部長：** ほぼ変わっておりません。

**齋藤壽一先生：** ある程度の非正職員が居ることは仕方ないことだと思いますが、我々は公益法人ですから経営も大事です。しかし、地域を元気にする、将来の人口減少も考慮し優秀な人材を確保するという観点でも、非正職員は可及的に減らしていくことが大事だと思います。

**中目会長：** 人件費の割合と改正労働法を考慮し、バランスを取りながら対応していきたいと

思います。

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。他に質問はありませんでしょうか。それでは平成 20 年度鶴岡地区医師会事業計画案承認の件についてお諮りします。賛成の方は挙手をお願い致します。

－ 挙手多数－

平成 20 年度鶴岡地区医師会事業計画案は承認されました。

続きまして平成 20 年度鶴岡地区医師会会費賦課案承認の件についてお願い致します。

**中里理事**：原案により説明（略）

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。それでは平成 20 年度鶴岡地区医師会会費賦課案承認の件についてお諮りします。賛成の方は挙手お願い致します。

－ 挙手多数－

平成 20 年度鶴岡地区医師会会費賦課案は承認されました。

続きまして平成 20 年度予算案承認の件についてお願い致します。

**中里理事、横山理事、鈴木理事、土田副会長、竹田理事、岡田理事**から原案により説明（略）

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。何か質問等ございませんでしょうか。それでは平成 20 年度予算案承認の件についてお諮りします。賛成の方は挙手をお願い致します。

－ 挙手多数－

平成 20 年度予算案は承認されました。

続きまして固定資産廃棄処分承認の件についてお願い致します。

**中里理事**：原案により説明（略）

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。何か質問等ございませんでしょうか。ないようですので固定資産廃棄処分承認の件についてお諮りします。賛成の方は挙手をお願いします。

－ 挙手多数－

固定資産廃棄処分は承認されました。

続いて土地の取得の件についてお願い致します。

**中目会長**：現センターは、本日まで出席されている中村純先生達を中心となって昭和 59 年に設立されました。当時は、人間ドックを 25 名から 30 名の人数で想定し、検診ホールを作りました。しかし最近、倍近くの 50 名から 60 名の受診者数、また午後の検診となっており非常に狭くなってきました。受診者の方々からも狭い、落ち着く場所がないという声が聞かれます。そこで、検診部分を新しく設立しようということで、19 年度及び 20 年度の事業計画に掲示させていただきました。

最初に、再度の確認にはなりますが新しいセンターを設立することに関して承認を得たいと思います。

**黒羽根議長**：それでは、新検診センター設立に関して賛成の方は挙手をお願いします

－ 賛成多数－

引き続き中目会長お願い致します。

**中目会長**：次に、どういった場所に土地を求めていけば良いかということですが、出来るだけ現センター付近に限定し探してきました。現在、旧 NTT 寮に在宅サービスセンターが設置されていますが、総面積が 504 坪ほどあり NTT と交渉を進め、成立しましたので取得についてご承認を得たいと思います。土地の価格については、5,500 万円で 1 坪あたり 10 万 9 千円となり、路線価格が 12～14 万円です。建物に関しては 0 円、ただし解体費は別途となります。

また、現在借用している車庫を含めた克念社の土地に関しては、車庫及び旧自由会館を解体し借用できるという内諾を得ています。利用者及び医師会としての利便性、景観について検討した場合に旧 NTT 寮の土地に建設した方が良いのか、克念社の土地に隣接かという交渉を進めていくことに関しても併せてご承認いただきたいと思います。

**黒羽根議長**：どうもありがとうございました。何か質問等ございませんでしょうか。土地の取得の件に関して、賛成の方は挙手をお願い致

します。

- 挙手多数 -

次に克念社との交渉についてはいかがでしょうか。

**犬塚博先生**：今日初めて聞きましたが、どれ位の費用をかけるおつもりなののでしょうか。全く見えていない状態で挙手を求められても難しいと思いますし、もっと細かいことまで教えていただきたいと思います。

**中目会長**：突然というような印象を受けるかもしれませんが、昨年度の事業計画にも掲示させていただいた通り、このままの状態ではリピーターも減り、新たな検査も出来ないということで説明させていただきました。

どこに土地を求めるかということについては、あまり離れた場所では求心力がなくなりますので、今回のような提案となりました。4月から特定健診も始まりますし、事業所から胸部 CT 撮影の要望などもあります。対応できないということになれば他へ流れてしまい、どんどん尻すぼみになってしまうという点もご理解いただきたいと思います。将来の展望も含めての提案としましたが、宜しいでしょうか。

**犬塚博先生**：具体的な費用はいくら位なのでしょうか。

**中目会長**：他を視察しての想定としては、CT などの機器も含めて 5~7 億円位だと思います。ちなみに現在の内部留保金は 12 億円です。

**黒羽根議長**：具体的な数字も出てきましたが、他の先生方はいかがでしょう。

**木根淵清志先生**：以前の話に出た、どこかの建物に入るという件はどうなったのでしょうか。

**中目会長**：総合保健福祉センターですね。その件は我々に提示された面積が非常に少なく、今とあまり変わらないということで止めることにしました。なお、そこへは休日夜間診療所の移転を計画しています。

**木根淵清志先生**：会員の負担金などはどうなるのでしょうか。

**中目会長**：現センター設立時にはご負担いただきましたが、新検診センターについては営業努力で頑張っていこうと思ひ、考えておりません。

**黒羽根議長**：他の先生方はいかがでしょう。

**真島吉也先生**：克念社の土地も含めて、建設をお考えなのでしょうか。

**中目会長**：旧 NTT 寮の土地に建設を想定した場合、克念社の土地は駐車場として利用できなければ利便性に欠けます。当初の交渉で克念社側は賃貸、購入どちらにも応じてくれませんでした。我々の計画が進むにつれて応じてくれるようになりました。

**真島吉也先生**：大きさとしてはどれ位をお考えでしょうか。

**中目会長**：1 日 60~80 人を検診できる場所ということで、購入予定 504 坪の半分くらいで十分だと思います。ただし、富山の視察でも見てきましたが問診室は現在、全て個室となっています。プライバシー、個人情報保護の関連でそうせざるを得ません。

**黒羽根議長**：大きな金額が動き次世代にも繋がる事業だと思いますが、他にはどうでしょうか。

**丸谷紘一先生**：現在の検査室などはどうなるのでしょうか。私は一緒に建設した方が良いと思います。

**中目会長**：これからの検討になりますが、1 階についてはふきのとう及び在宅サービスセンターの移転を考えています。

**丸谷紘一先生**：会員に向けての情報は逐次お知らせして欲しいと思います。

**中目会長**：新検診センター設立検討委員会を設置予定ですので、情報は逐次お知らせします。

**黒羽根議長**：今日の会長の意向としては、検討に入る前の交渉について承認を得たいとのことのようなのですが、いかがでしょうか。

**中村純先生**：会員の負担がないということは大変結構なことだと思いますし、本日の説明である程度は理解できました。しかし、他の出席されていない会員の先生方に関して、委任状に

どれくらい効果があるのか、もう少し考えてみた方が良いのではないのでしょうか。

**中目会長**：時間的な問題として申し上げますと、交渉に入ることに 대해서는本日ご承認いただきたいと思ひます。

**中村純先生**：私は賛成ですが、現センターを設立した時には会員の先生方への負担が問題となりました。先ほどお聞きした通り、負担は無いとのことですので大丈夫とは思ひますが、委任状が有効であるかどうかという点がかかります。

**中目会長**：できるだけ丁寧、詳細に説明していきたくと思ひます。

**中村純先生**：是非お願い致します。

**黒羽根議長**：拙速するなという中村先生のご意見でしたが、その他ありますでしょうか。ないようですので、今後の交渉について賛成の方の挙手をお願い致します

－ 賛成多数－

この件に関しても承認されました。

他に協議事項などある方いらっしゃいますでしょうか。それではこれをもって、鶴岡地区医師会第 87 回定時総会を終了致します。どうもありがとうございました。

(午後 8 時 40 分 閉会)



## 准看護学院研修旅行

期 日：平成20年4月21日～23日

去る4月21日(月)～23日(水)、2泊3日の研修旅行がありました。1日目、ディズニーランド。2日目に国立療養所多磨全生園を1日見学し、3日目はグループ行動。2年生になって初めての大会。幸い天候にも恵まれ体調を崩すこともなく無事終わることができました。学生生活の楽しい思い出になったことと思います。(以下は学生の感想文より)

### 野村 愛美

初めてハンセン病を知ったのは、数年前のテレビ放送でした。入所者の方の生活の様子で、手足の指がなく、目も見えず、耳の聞こえない方が本を読むとき、舌を使って点字体を読んでいる姿が印象的でした。今回、講義・語り部の方の話や療養所を見学させていただき、らい菌のこと、入居者の方の生活などを学ばせていただき、理解することができました。ハンセン病は昔のことという認識でしたが、入居者の方の年齢が祖父母と同世代であることに気づかされ、昔のことではなく現在も続いていることなのだと感じさせられました。同時にハンセン病を知る機会が少なかったことはそれだけハンセン病に対する差別や偏見が強かったことを表していると思います。一人一人が人権尊重の精神を持つことが大切だと感じました。

### 佐藤 雅人

出発前は正直、1回くらい怒られるようなことが起きて嫌な雰囲気になったりすることがあるだろうと思っていたのですが、目的通り、1人1人が自分の行動に責任を持ち、団体行動を通してクラスの団結力、絆を深められた研修旅行になったと思います。

初日のディズニーランドでは3大マウンテンを初め、いろいろなアトラクション、パレードを楽しむことができました。旅行中は電車の移動や集合時間に遅れることもなく大変良かったと思います。一番心に残ったのは日本一高いホテル(横浜ロイヤルパークホテル)に宿泊でき皆と過ごせたこと、最上階での夜景は本当に綺麗だったし記念になりました。研修旅行でクラスメートと行動を共にし、良いクラスだと感じる事ができたし、とても楽しむことができたと思います。





# 同好会紹介

## 鶴岡地区医師会写真クラブ

会長 真島吉也

我が鶴岡地区医師会写真クラブは年に2回、春と秋に医師会2階和室で新しい作品を展示します。この時それまで展示された作品が湯田川温泉リハビリテーション病院の廊下に飾られます。こうした作品は多くの市民の皆さんの目にふれ、皆さんとの心の交流に役立つ共通の話題を提供しております。出品される作品は忙しい毎日の中で一寸した時間を利用して撮った御自分の住んでおられる周りの風景、花の写真、周りの人物、旅行をした時の思い出の写真などの他、芸術性豊かな絵画も含まれます。このような出品作品の合評会は、やはり年に2回会員の懇親会を兼ねて行われますが、会場の選択は会長の役目なので毎回趣向を変えた場所選びが私の楽しみの一つになっています。合評会は展示作品のコピー集を各自にお渡しし、御本人による解説に皆さんのコメントをいただくという形式です。撮った人の作品にまつわるお話しを皆が興味深く拝聴し、これを話題に大いに盛り上がるということが多く、技術に関する難しい理屈などは無く話題はいつの間にか医療に関する情報交換の場となっていたりして、真に和気あいあいとしているところが私の気に入っているところです。

クラブが活動を始めたのは昭和59年頃のようにですが、当時は会員が20人前後おられ、マイクロバスを借り切って撮影会をやったり意欲的な活動が行われていたようです。私は平成13年にクラブに入れていただきクラブ歴は真に短くいつも「ブレブレ」の写真を平気で出しておりました。ところが前会長の故中目不三男先生の「技術はともかく住んでいる所が市内の

真ん中でクラブの連絡その他事務的なことに何かと便利だろう」と云う御趣旨のもと平成16年より会長のお役目を拝命しております。それ以来、会長という名にふさわしい写真を撮るべく、その道の先達のご指導を受けていますが晩学のこともあってなかなか世間で認めていただけるような写真は撮れません。しかしどんな写真でも温かく認めていただけるのが我がクラブの特徴と思って写真を撮っております。

最近写真は銀塩写真からデジタル写真に大きく移行しつつあります。便利なデジタルカメラが普及し写真に対する関心も一層深くなっており多くの傑作が生まれていることと思います。このような情勢の下、鶴岡地区医師会会員の皆さまの中にもデジカメを含んだ写真を撮個人的に楽しんでおられる方も多いと思います。これまでのクラブ員は発足の経緯から医師が主体でしたが、これからは大きく膨らんだ鶴岡地区医師会会員全体の中から写真に興味がある方に参加していただくような方向で進みたいとは会合のたびごとに話し合っております。そうなれば、当然これまでのやり方とは少し違ったものになると思いますが、創立以来の温かい雰囲気を残してお互いの心の交流を図れるクラブにしたいと考えています。具体的には、これからのことですがクラブ活動報告の場をお借りしてまずはクラブ員募集の第一報とさせていただきます。

## 私のお勧めの店 その31

～ スペイン食べある記 - 5- ～

横山 靖

先月号の「めでいかすとる」では私のこの拙文に対し、大先輩である黒羽根洋司先生より、もったいないようなお褒めの言葉を戴いた。まさに身にあまる光栄である。黒羽根先生のお言葉を励みに、さらに連載を続けていきたいと思う今日この頃です。いや～、まさに何とかもおだてりゃ木に登るですな。

さて、宮殿を後にグラナダ市内のホテルに向かう。この日はクリスマス・イヴなので外のレストランはすべて休み。ホテルの食堂での夕食である。うれしいことにスペインでぜひ食べたいと思っていたメルルーサという魚が出た。脂の乗ったタラのようなおいしい魚である。クリスマスだからもちろん七面鳥も出た。さらに食事中には、『トゥナ』というグラナダ大学の学生の音楽グループが演奏しながら各テーブルを回り、自分たちのCDを売り込みに来た。ビールの酔いもあり、思わずCDを一枚購入してしまった。CDの説明書きによると、この『トゥナ』という団体は既に16世紀には存在したそうで、多くの学生が集まって流行歌を演奏するというのが伝統らしい。このグラナダ大学は名門で、アメリカのあのクリントン元大統領も在学していたこともあるそうだ。

朝起きると、ホテルの窓からは白い雪を湛えたシエラ・ネバダ（山脈）の美しい姿が見ることができた。実はグラナダに着いた日は雲に隠れて見えなかったのである。朝食後にテレビをつけたら、今度は『ドラエモン』と『キャプテン翼』を放映していた。のび太のお母さんの声は、日本とは対照的に低くて恐い。『キャプテン翼』はスペインでも人気があり、成長した翼くんは漫画ではFCバルセロナに入団したのだった。それを読んだレアル・マドリッドのオーナーが、希望すればレアルに入団させたのに！、と残念がったとか。なぜかスペインで日本の漫画を堪能した後、バスでコルドバへ向かう。



グラナダの街を出ると、幾重にも続くなだらかな丘が続き、丘の上どころかそれこそ地平線までオリーブ畑と乾いた大地だけが延々と続いている。もちろんバスでの移動だが、そうはいってもコルドバまでの3時間の間にトイレ休憩や水の補給も必要である。しかし、こんなオリーブ以外何もない土地である。そこに目をつけたのがオリーブ農家のニコラ爺さん。この道路沿いのオリーブ農家がわずかに集まった集落にドライブ・インを作った。実際は作ったというより、もう走っていない鉄道の小さな駅を改築したのであるが、もちろんグラナダからコルドバへ移動する観光バス目当てである。これが大当たり。何せ他にトイレの用を足せる場所がないのだから、ほとんどのバスがここで休憩を取る。もちろん私たちのバスもである。ドライブ・インに入ると、左手にはカウンターがありカフェになっていて、静かな爺さんが客の相手をしている。一方、右手はおみやげ売り場になっていて、もう一人の爺さんがバナナの叩き売りのように大声を上げ、客を誘っている。オリーブ農家だけあってお勧めは自家製バージン・オイル。右の爺さんは器用な日本語で『一番しぼりい～！』、『3個でG o！！』としきりに大声で売り込んでいる。『一番しぼり』はバージン・オイルという意味で、さらに2ユーロのバージン・オイルを3

個買うと5ユーロにまける、というのを5ユーロとG oをかけているのだ。誰が教えたのか？どこで覚えたのか？思わず、そのもの凄い勢いに釣られ私も買ってしまふ。もちろん3個である。さらにグラナダ焼の皿を見てると、今度は別の東洋人の一段のバスが到着した。彼らは韓国人のグループである。まあ、スペイン人にとって日本人も韓国人も中国人も同じなのだろう。例のおみやげ売り場にやってくると、くだんの爺さんは例によって大声で『一番しぼりい〜!』、『3個でG o!!』さらにまくし立てる。しかし、さすがに韓国人には通用しない。それでも爺さんはキョトンとしてる彼らの反応にはおかまいなくどんどん大声を上げてる。もう、そのうち爺さんの渾身の気迫に圧倒されたのか、彼らもオリーブオイルをどんどん買い始めたではないか。このようにニコル爺さんのお店はとても繁盛する。それで、大学で哲学の教授をしていたニコル爺さんの兄も教授を辞め、お店を手伝うようになったそうである。当然、あのカウンターで静かに客の相手をしていた方が哲学科の教授の兄であろうと思ったが、念のため添乗員のIさんに聞いたみた。ところが、静かな方がニコル爺さんだそう。ということは、えっ！ま、まさかあの賑やかな『3個でG o!』の方が教授？？しかも哲学科でだぞ！そんなことはありえないだろう！！だいたい哲学と『一番しぼりい〜!』がどこで結びつくのか？いやー、驚いた。どうみても彼にはこの仕事が合っている。きっと『3個でG o!!』の爺さんは哲学を教えていたころはきっとつまらない人生だったろう。彼はやっとな職を見つけたのだ。しかし、人には思わぬ才能があるものだ。私のような凡人でもこの爺さんには本当に勇気づけられた。

コルドバまで向かう途中、アンダルシア地方の名物の白い壁の村で5分ほどバスを停める。そこは村の赤十字の前であったが、やたらと黒人がたむろしている。彼らはオリーブの収穫のために来たアフリカからやってきた季節労働者である。この日はクリスマスなので農作業は休みですることがなく、何かいいことがあるかもしれないと思って赤十字の前に集まっているのだそう。改めてスペインという国がジブラルタル海峡をはさんで、アフリカ大陸の対岸にあることを思い知った。そして、自分がはるか

東の果ての日本からやってきて、ヨーロッパの西のはずれ、もうこの先には大西洋しかない国に身を置いていることを、郷愁とともにしみじみ思ったものだった。そんなセンチメンタルな気持ちに浸りながらも、バスはコルドバへの道を急ぐ。途中、バスの中で添乗員のIさんが、バルセロナ・オリンピックがスペインで、どういう風に受け止められたかを話してくれた。あの当時、サマランチ氏がI O Cの会長をしていて、彼はバルセロナ出身だった。それで当然、バルセロナに誘致されたのだが、彼は開会式でバルセロナ地方の言葉であるカタラン語（カタルーニャ語）で挨拶を始めたそう。それを聞いた途端に、多くのスペイン人は、あのオリンピックはスペインのものではないと思ったそう。あらためてスペインという国の複雑さを考えさせられる。そのいい例がスペインの新幹線である。スペインの新幹線はAVEといい、マドリッドからアンダルシア地方のセビーリャの間を結んでいる。1992年のセビーリャ万博に合わせて作られた。1992年といえば、バルセロナ五輪も開かれた年でもある。しかもバルセロナはスペインで2番目に大きな都市である。なぜ万国博覧会の方にだけ新幹線を作るのか？日本で云えば、新幹線を東京～大阪を作る前に、東京～仙台を先に作ったようなものである。日本だって関西弁と東京弁は違うけど、さすがにそんなことはしない。言葉や風習は違ってもお互い同じ日本人、やはり日本は単一民族国家で平和であるとつくづく思ったものだ



# Introduction

# 勤 務 医

No.78

荘内病院 神経内科

丸 谷 宏 先生

鶴岡地区医師会会員の皆様、はじめまして。4月より市立荘内病院神経内科に勤務させていただいております丸谷宏と申します。赴任して1ヶ月余りですが、医師会の先生方には大変お世話になっており感謝しております。

私は鶴岡市馬場町出身で鶴岡南高校卒業後、東京医科大学へ進学し、平成8年東京医科大学第三内科講座に入局いたしました。中学、高校と吹奏楽でトロンボーンばかり吹いておりましたが、医師にはまず体力が必要と大学時代には準公式野球部に所属しました。しかし東京医科大学のキャンパスは西新宿高層ビル群の一角にあり、野球の練習をするグラウンドもありませんでした。そこで神宮球場までボールやバットを抱えながらランニングをし、夜間ヤクルトの室内練習場を借りて練習をしておりました。あまり強くはありませんでしたが、いろいろ工夫した練習する大変結束したチームで今でも盛んに交流が続いています。入局した東京医科大学第三内科は神経内科、糖尿病代謝内分泌内科、リウマチ膠原病内科、アレルギー喘息内科の4つの臨床科が包括されており、研究グループは分かれますが、若手医局員は全ての臨床診療を担当しております。私も前半の大病院時期には指導医とともに膠原病や内分泌疾患などの多くの疾患を診る機会を得ました。その後専門の神経内科の研修を開始し、研究ではパーキンソン病を中心に行動薬理学的研究を行いました。また脳卒中専門治療研修のため秋田県立脳血管研究センター内に発足したばかりの脳卒中診療部に国内留学させていただき、その後しばらく東京医大八王子医療センター救命救急部で脳卒中や脳炎などの神経救急の診療に従事しておりました。後半の大病院時期には、脊髄小脳変性症やパーキンソン病など神経難病、クロイツフェルトヤコブ病や辺縁系脳炎などの臨床と研究



を行っておりました。本年3月まで大学関連病院の西東京中央総合病院神経内科医長として勤務しておりましたが、約20年ぶりに鶴岡へ戻ることになり、今回荘内病院へお世話になることとなりました。鶴岡地区ではNet4Uなど素晴らしいシステム運用があり、とてもしっかりした病診連携がとれているのに大変驚いております。医師会中心に地域医療を支えていく一体感が感じられ、その中で微力ながらお役に立てればと考えております。

神経内科で扱う病気の種類としては脳梗塞や脳出血などの脳卒中、アルツハイマー病などの認知症、パーキンソン病や脊髄小脳変性症などの変性疾患、筋萎縮性側索硬化症などの運動ニューロン疾患、脳炎・髄膜炎などの感染症、重症筋無力症などの筋疾患、末梢神経疾患、頭痛、顔面痙攣など幅広くあります。慢性疾患や難治性の病気もありますが、最終的に患者様方に出来るだけ満足のいく医療を提供できるよう努力してまいります。

また常勤医一人にて十分な体制とは言えず、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思えます。新潟大学神経内科非常勤、当院脳神経外科・内科の先生方からご協力いただき鶴岡地区医師会の先生方のお役に立ち信頼を得られるよう頑張っていく所存でございます。

何卒ご指導、ご鞭撻の程よろしく願いたします。



## 連携担当者紹介 ～No1～

鶴岡協立病院 地域医療連携室

瀬尾 利加子

こんにちは。鶴岡協立病院 地域医療連携室です。いつも皆様にはお世話になっております。この度は、このような機会をいただきありがとうございます。

鶴岡協立病院地域医療連携室は2002年10月に「地域医療機関との関係を今以上に深める」ことを主な目的として開設しました。専任事務2名の配置となっています。業務の基本は「病院と他の医療機関との窓口」です。診察予約や高額医療機器共同利用の予約、逆紹介時の問い合わせの他に学習会の企画運営や事務局業務なども行っています。また、紹介患者データをデータベース化し統計や分析を行い、当院の役割や傾向を提案することも重要な仕事となっております。返信管理や担当医への記入催促もこのデータベースにより管理しています。

時々皆様の医院にと頻繁にお邪魔して病院へのご意見などお聞きしなくてはと思いつつも、なかなか実践できずにおります。鶴岡の皆様は私たちがお邪魔したときにはいつも、スタッフの方はじめ、優しく対応していただき感謝しております。他の地域の連携仲間の話ではつれない対応をされる場合があるらしいので当地区はうらやましがられます。

鶴岡協立病院は主に急患・新患対応、外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科（火曜・土曜 各月2回）を担当します。病院向かいにある附属クリニックは内科の慢性疾患専門科と小児科を診察させていただきます。内科専門科に関しては予約制であり、担当医も曜日ごとに違います。医師指定での紹介の際はぜひとも地域医療連携室にご一報いただくと幸いです。中には専門科への紹介状を持参し来院され、担当医が診療日にはなかったり休診であったりして再度の来院をご案内せざるを得ないケースもございました。（急を要する患者様は鶴岡協立病院の新患内科で診察させていただきます）診察受付時間は9：

00～12：00、16：00～18：00です。急を要する患者様の時間外での診察が必要な場合にはご一報いただければと思います。また地域医療連携室は「急を要さない患者様」の診察相談や予約を担当しています。看護師が配置されていない為、適切な対応が出来ないことがあります。そのため急を要する患者様の紹介の際は外来看護師が対応させていただきます。

まずは連携室にお電話でもかまいませんが、外来看護科にお繋ぎいたしますことご理解ください。入院を要する患者様のご紹介の場合も外来看護科が対応となります。患者様の病状にあわせ、可能な限り適切な診察案内をさせていただきます。

広報活動も業務の一つです。病院内のことは中々見えにくいのではないのでしょうか。少しでも病院の様子が見えるような広報を目指しているのですが、まだまだ検討していく必要があります。皆様の当院へのご意見や要望、苦情などもお聞かせください。

### スタッフ紹介

瀬尾 利加子 連携室に勤務して6年目です。今年春から自転車通勤を開始しました。断続的な筋肉痛です。



## 表 紙

「神輿」

佐藤 洋 司

旧温海町の春は、ダンツクダンツクという囃し太鼓の音から始まります。4月15日の神輿流しで有名な巖島神社の例祭から始まりだんだん北上してきます。

温海温泉では、5月2日から太鼓の音が鳴り響き、獅子舞がずっと夜通し家々を回って祭を盛り上げ、3日になればいよいよ熊野神社の例祭の行列が街中を練り歩きます。中でも暴れ神輿の登場で、祭も最高に盛り上がるのです。

～ 編集後記 ～

伊藤 末志

荘内病院には「診療体制充実に向けてのプロジェクト会議」なるものがつくられ、勤務している医師の待遇も含めて検討されてきましたが、最近の一番の業績は丸谷 宏先生の赴任でしょう。今月からは脳神経外科内に外来枠も設けられ活躍しております。これからの脳卒中連携パスの中心的存在としても活躍を期待されております。そう言えば勤務医のコーナーも久しぶりですね。それだけ勤務医の新陳代謝が鈍っているということでしょうか。

5月8日には鶴岡地区地域医療連携パス研究会（代表世話人：竹田浩洋先生）主催の脳卒中連携パスキックオフ大会が開催され、多くの関係者が参加されました。研究会が発足して2年経過しますが、この間の本研究会の業績は多大なものがあります。まもなく荘内病院では電子カルテで直接Net4Uが利用できるシステムが動きます。地域医療連携パスの運用含めNet4Uの大幅な利用用途拡大が期待されます。

さて、ちょっと早めのアナウンスですが、第5回日本医療マネジメント学会山形地方会が荘内病院を主管にして7月19日（土曜日）に鶴岡市中公民館で開催されます。午前中は一般演題の発表があり、ランチョンセミナーを三原一郎先生にお願いしました。午後からは「地域医療連携パスの現状と課題」と題してシンポジウムを行います。座長の一人は竹田先生にお願いしました。ここで県内各地の連携パスの現状が明らかになることでしょう。シンポジウムの後には国際医療福祉大学大学院の武藤正樹教授に「新たな地域医療計画と地域連携クリティカルパス」と題して特別講演をしていただきます。近くになりましたらまたご案内しますが、多くの会員の皆様の参加をお待ちいたしております。

編集委員：中村秀幸・伊藤末志・福原晶子・斎藤憲康・小野俊孝・渡部隆二

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町27-1 TEL 22-0936(代)